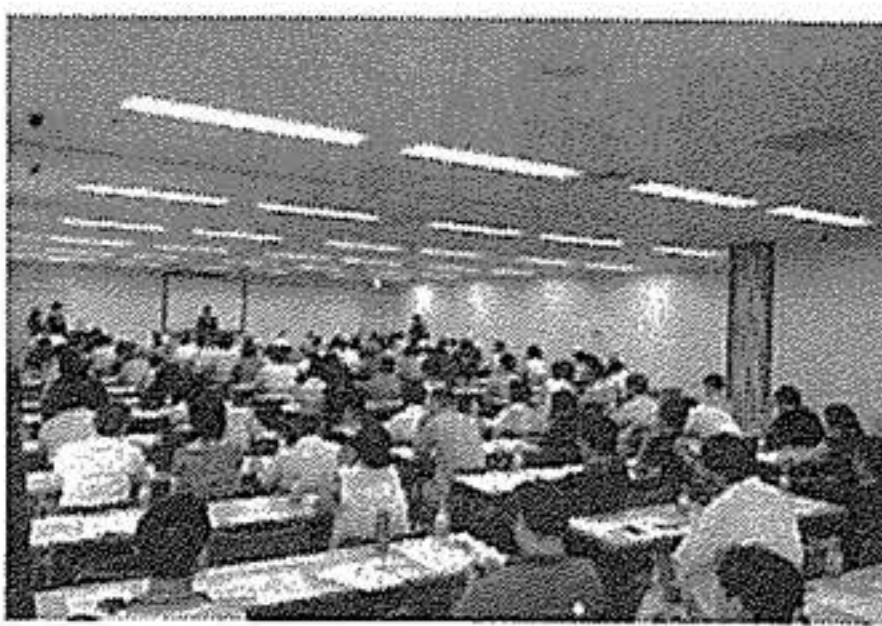


一般公開の無料セミナー

有名ジャーナリストによる



国際ジャーナリストの講演聴講のため120人が集まった

住友ビルで『第120回 住友ビル記念アットホームセミナー』を開催し、投資家を

を務めた経験がある国際ジャーナリストの饗瀬誠一さんを特別講師として迎えた。100回を超えた時点で10回ごとに経済学者の野口悠紀雄氏や経済ジャーナリストの伊藤洋一氏などの有名人を講師として迎えているが、リッチロードの会員や家主向けに日頃の感謝の意を表していくとともに、さらなる集客につなげていきたいという

高遮音性能の中層賃貸住宅商品を発売

大和ハウス工業

大和ハウス工業（大阪）は、遮音性能を高め

狙いがある。饗瀬さんは『激動する世界と日本経済のゆくえ』をテーマに、日本の

も聞けて大変満足した。今後の投資活動に役立てたい」といった声が上がった。

産投資メディア『不動産投資Times』（タイムズ）内にAIメッセンジャーによるコミュニケーション

売を6日より開始した。前年度比約180%増と受注種数が伸びている同社ブランド『skye（スカイエ）』に、オリジナル界床構造「SRスラブ55」と標準搭載の「遮音スタッド界壁」を組み合わせ、賃貸部屋空間の遮音性能をさらに高めた仕様。共同住宅の上下階の間に高密度軽量



高い遮音性能が特徴

た造りになっている。国土交通省が発表した「平成25年度マンション総合調査結果」によると、

生活音は居住者間トラブルの第2位となっており、遮音対策は賃貸業界でも課題となっている。同社は新商品『skye e+サイレントスタイル』を含めた『skye』の年間300棟の受注を目指す。

共用部の改修で家賃アップ

明るい外観で若年層が入居

市 萬

約1300戸を管理する市萬（東京都世田谷区）は、築30年の木造アパート『マルハイツ』の共用部を修繕のみで賃料を3000円上げた7万1000円で入居を決めた。

東急田園都市線『三軒茶屋』駅徒歩10分に位置する同物件は、2階建て8戸の木造アパート。屋根が水漏れするなど物件の老朽化が



明るい物件に生まれ変わった

でも印象的なのは階段下ポスト周りの共用部。以前は日の当たらないところで、木造のつくりをペースだ

目立ったため、大規模に置いた。木目調の修繕を行った。改修前の入居者層や周辺施設を参考に、都内を働く単身者や駒澤大学の学生をターゲット

また、各住戸前に同じく照明を設置。日が暗くなると自動で点灯するので、女性の単身者から好評だという。改修後は20代と30代前半の単身者2組が入居し、約3000円の

置することで明るい印象を与えている。

社員専用スペースの時間貸しを開始

地域住民とのつながり生み出す狙い

エスエストラスト

6000戸を管理するエスエストラスト（東京都八王子市）は7月から、JR中央線「八王子」駅から徒歩6分の場所に立ち、同社が入居している『豊和ビル』6階の一部のスペース貸しを開始した。

貸し出しているのは、4LDKの22㎡のLDK部分。そのうち2室は会議室、2室は倉庫として同社が使用しており、LDK部分はこれまで社員

が昼食をとったり、交流したりするなど利用していた。募集は現在貸しスペース予約サイト『軒先ビジネス』で行っている。

同社は交差点に「わたしより、信号を見て」という看板を設置するなどユニークなアイデアで地元八王子を盛り上げようと注力している。今回の試みも、不動産会社として周辺住民とのつながりを生み出した。

